

Woody Biomass Iwate
人のある暮らしを楽しむ

Part2

薪ストーブ・ペレットストーブ導入事例集



《企画・制作》

岩手・木質バイオマス研究会

〒020-0861 岩手県盛岡市仙北一丁目14-20-2F
TEL.019-635-8272 FAX.019-635-8272
<http://wbi.main.jp/>



この冊子は、高速道路関連社会貢献協議会のご支援により作成いたしました。

本冊子の無断転載を禁じます(2010年4月発行)

岩手・木質バイオマス研究会

はじめに

木を燃やす、ぬくもりのある暮らしをしてみませんか…そう呼びかけた「火のある暮らし」Part1の発行から2年たちました。今回は、さまざまな住まい方を取り上げさせていただきました。

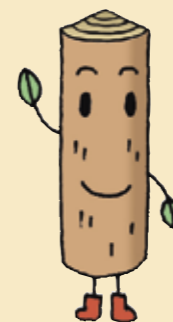
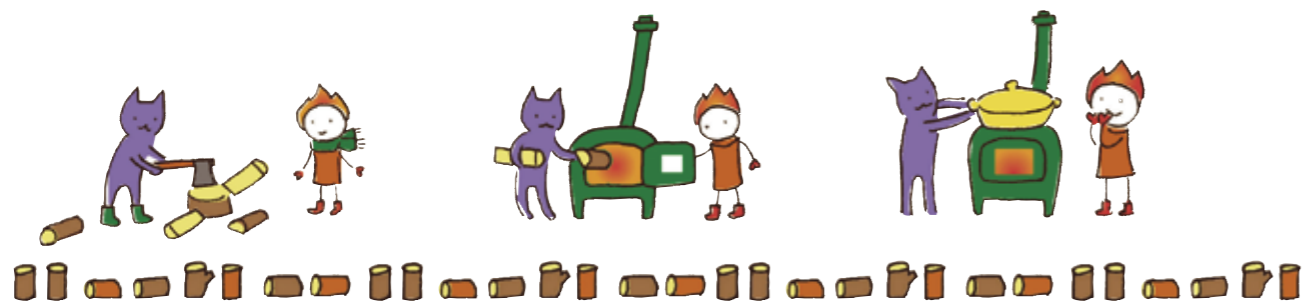
定年退職を機に薪ストーブを使い始めた人は、「豊かな生活を送っています」と笑顔で話してくれました。関西の都会暮らしから転勤し、結婚を機に薪ストーブ暮らしを始めたご夫婦も「以前は考えられないことを沢山経験しています」と楽しそうに笑いました。石油ストーブの臭いに酔っていたご婦人は、ペレットストーブに切り替えたことで身も心も温かい生活を過ごすようになりました。

このあとに掲載する14の事例は、この数年の間に「火のある暮らし」をスタートされた方々です。いずれも共通しているのは、単に暖房器具が変わっただけでなく、「火のある暮らし」を始めることで、それぞれの雰囲気や、住まい方や生き方までも変わっていることです。

そういえば、「炎(ほのお)」について、ペレットストーブ開発に携わった技術者のつぶやきを思い出しました。ストーブでは石油やガスの炎を、一定に保たねばなりません。ところが、ペレットストーブ開発では何十時間、何百時間もの間どうやっても、木を燃やした炎が均一な、同じような燃え方に制御できなかったそうです。今考えると、それは無謀なことだったのかもしれない。その技術者は、じっと木で燃やした炎を見つめるうち、「これでいいんだ。ゆらいだ炎のままです」と思うようになり、心が解き放たれたように思ったそうです。

薪やペレットの炎は、決して均一ではありません。石油ほど機能的でもありません。だからなのでしょう…炎の周りには、人が集まってくるようになります。

そんな「火のある暮らし」を少しでも、味わってみてください。



薪ストーブ事例

①盛岡市・工藤さん宅
 定年後の人生を薪ストーブで——三世代家族の団らんの場P3



②大船渡市・平山さん宅
 築90年の旧家にストーブを——薪は裏山から“自家製”でP4



③盛岡市・桐田さん宅
 大規模な改修で快適な環境を実現——電熱ヒーターと薪ストーブの組合せP5



④盛岡市・八木さん宅
 不慣れながらも楽しく——人も猫もお気に入りの場所P6



⑤遠野市・遠野郷八幡宮社務所
 人々が集う現代版の「囲炉裏」——民話のふるさとの神社・社務所P7

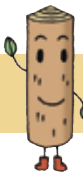


⑥盛岡市・ちいさな野菜畑
 ストーブからのメッセージの発信——間伐材のエネルギー利用を訴えるP8



⑦八幡平市・岩崎さん宅
 ゆらめく炎にあこがれて——春からは薪割りにもチャレンジP9





①盛岡市・工藤さん宅



定年後の人生を薪ストーブで——三世代家族の団らんの場

盛岡市南部の田園地帯に建つ工藤さんのお宅。玄関を入ると、大きな薪ストーブが出迎えてくれます。

60歳代のご夫妻と、娘夫妻と孫の三世代5人暮らし。2年前、奥様と同時期に定年退職を迎え、住んでいた築25年目のご自宅をリフォーム。広い玄関ホールの中真ん中に薪ストーブを置きました。



「灯油も高くなってましたし、『エコ』ってことも考えて。定年で家にいる時間が長くなったことも薪ストーブを入れる契機になったかな」と工藤さん。在宅時はほぼ一日ストーブを焚いています。朝方もおき火が残っていて、寒さはそれほどでもないとか。ストーブの上部は吹き抜けになっており、2階までストーブの温もりが上がっていきます。煙突は二重煙突。横引き部分を少なくして、まっすぐ屋根まで立ち上げています。煙突貫通部の屋根の板金工事は必要になりますが、燃焼効率の良い方法です。



薪は、知り合いから購入しています。すでに割ってある状態の薪で、手間がかからず便利とのこと。別棟の車庫の中に保管しています。

ストーブの周りには椅子と小さなテーブルがちょこんと置かれています。その椅子に掛けてお話をうかがっているうちに、5歳のお孫さんがやってきました。工藤さんが薪をくべるようすをじっと眺めています。「ストーブが入ったおかげで、この場所がいい団らんの場になりました」と満面の笑み。

ストーブの上には鮭が吊るしてあります。「近所のスーパーで買ってきて、外で干しておいてから、ここに吊るすんです。いいおつまみですね」と工藤さん。「火のある暮らし」を楽しんでいる様子が伝わってきました。



▲ストーブ:ダッチウエスト「エンライト・ラージ」



②大船渡市・平山さん宅



築90年の旧家にストーブを——薪は裏山から“自家製”で

大船渡市の山あい、瓦葺きの大きな入母屋屋根の平山さんのお宅。気仙大工の手による築90年余のこの家で、平山さんご夫妻と高齢のお母様の3人で暮らしています。

畳敷きの広い茶の間に入ると、薪とペレット兼用のストーブが燃えていました。13年前に、続き間の座敷の部分はそのままにして、日常生活の場である茶の間、キッチンと水周りをリフォームしたそうです。



その後、7年前にこのストーブを設置したそう。「女房が以前看護婦をしていたんですが、環境問題に関心を持ってまして。それで、体にも環境にも良いから…とすすめられて」と平山さん。茶の間の角の部分の床と壁にレンガが貼ってあり、そこにこのストーブが置いてあります。窓に障子が入った掘りごたつの和室ですが、違和感なくおさまっています。大がかりな断熱改修などはしていませんが、このストーブ1台で、茶の間と隣のキッチンは十分暖かく過ごせるそうです。

薪はご自身の山で雑木を伐り、道路端まで引き出し軽トラックで運んで来て、割って薪にしています。割った薪は以前牛や馬を飼っていた長屋で保管しています。

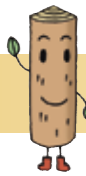


時々ペレットを使うこともあるそうで「ペレットは最高ですよ。灰は出ないし、火力は強いし。ただ、値段がねえ…」と平山さん。「自分はもう定年後なので、薪の準備とかはいつでもできますけど…お年寄りの家庭とか、うちでも息子の代では難しいでしょうね。でも、このストーブだったら、もし薪が調達できなくなってもペレットが使えますしね」とも。

薪とペレットの両方を使えるということは、生活や家族の変化にも対応できるということなのかもしれません。



▲ストーブ:石村工業「クラフトマンストーブ」



③盛岡市・桐田さん宅



大規模な改修で快適な環境を実現

——電熱ヒーターと薪ストーブの組合せ



1950年代のモダンジャズが流れる素敵なリビング。盛岡市北部、四十四田ダム近くの住宅地にある桐田さんのお宅は、板張りの外壁が印象的な木造平屋建てです。夫婦と中学生のお子様の3人で暮らしています。

一見、数年前に新築した家のように見えますが、「8年前に築25年ほどの古い家を購入して、大幅に改築したんです」とのこと。屋根と柱だけを残し、全面的に改修工事を施した結果、断熱性能は次世代省エネルギー基準*に適合するレベルを実現。リビングの薪ストーブは、この改修の際に設置しました。



リビングの床に敷いた座布団に座ってお話をうかがいました。屋外の気温は氷点下。薪ストーブにはおき火が残っている程度でしたが、全く寒さを感じません。

実は床下のコンクリートの中には電熱ヒーターが埋め込まれており、暖房はそのヒーターと薪ストーブを併用しているのです。住宅の断熱性能がこれだけ高ければ床下のヒーターだけで十分まかなえるはず…なぜ薪ストーブも?と尋ねると「遠野出身の私は、子どものころは家でも学校でも、すべて薪ストーブだったので」と桐田さん。現在は、床下のヒーターを弱く運転し、朝と夜だけ薪ストーブを燃やすと、電気代も安く済み快適だそうです。

薪は、近くの公園で剪定した木を譲ってもらい、ご自身で割ったものが主とのこと。煙突掃除もご夫婦でしているそうです。

十分な断熱性能を確保し、床下の電熱ヒーターでベースとなる暖房をした上で、薪ストーブを楽しむ。リフォームでもここまで快適な空間を実現できるのか…と感心しました。

*次世代省エネルギー基準：住宅の断熱性能を定めた、現時点では最新の基準。1999年に告示された。2009年から導入された「長期優良住宅」の認定の条件にもなっている。



▲ストーブ：バーモントキャスト「アスペン」



④盛岡市・八木さん宅



不慣れながらも楽しく——人も猫もお気に入りの場所

田んぼや牧草地が広がる盛岡市玉山区。雑木林の背に建つ小さな家が見えてきました。八木さんご夫妻の暮らすお宅です。5年前、結婚を機にこの家を借り、引っ越してきました。

30歳代の二人は、ともに関西出身。岩手に来るまでずっと関西圏で暮らしていました。「大阪でも、NPO法人『里山倶楽部』の活動の中で薪をつくるための伐採作業等はしていたんですが、ほんとうに薪ストーブでの生活は岩手に来てからですね」と振り返ります。薪は裏の林の木や、電力会社が保安伐採したものを譲り受けるなど工夫して集め、すべて自分たちで割って、外の小屋に積んであります。



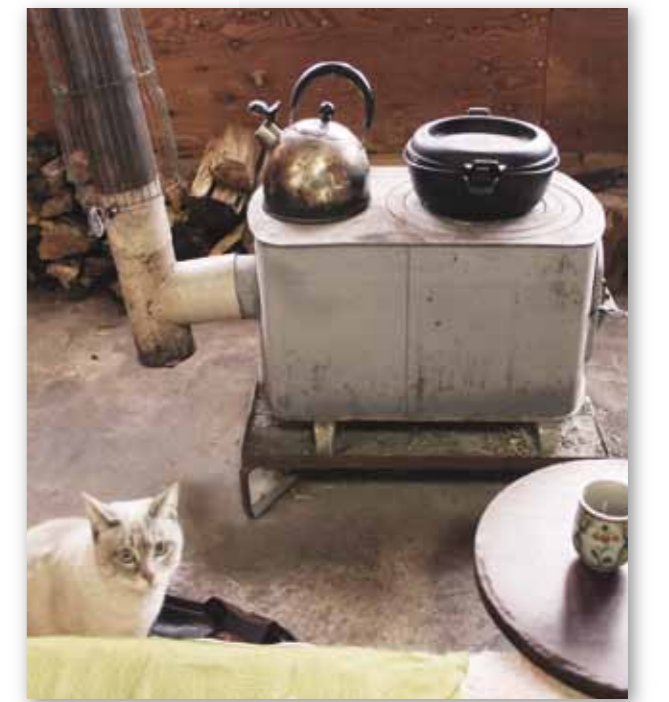
台所の脇に4畳ほどの土間があり、その真ん中で鋼板製の薪ストーブがあかあかと燃えていました。土間の床は台所に比べて40cm程低く、腰掛けるにはぴったり。座布団に小さな丸いテーブルを置いて、「ちょっとした作業はここですることが多いですね。昼ごはんもここで食べてますよ」と八木さん。愛猫もお気に入りの場所のようで、ストーブの脇でのんびりとしています。

ストーブの上には鋳物のお鍋がのっています。ふたを開けると、じゃがいもとさつまいもがほかほかと湯気

をたてていました。「暖房はもちろん、料理にも使えます。温めたり、煮たり、焼いたり…この前は牡蠣もこの上で焼きましたし。」と八木さん。



ストーブの脇に腰掛け、出来上がったばかりのじゃがいもをごちそうになりました。薪の温もりを感じながら、ほくほくとした甘さが口の中に広がります。見かけは無骨な四角いストーブのまわりには、不思議な居心地のよさがありました。



▲ストーブ：鋼板製ストーブ



⑤遠野市・遠野郷八幡宮社務所



人々が集う現代版の「囲炉裏」——民話のふるさとの神社・社務所

「民話のふるさと」遠野を代表する神社、遠野郷八幡宮。社務所の一角で、薪ストーブがパチパチと燃えています。

現在の社務所は3年前に建て替えた建物ですが、その建て替えを機に薪ストーブを導入したとのこと。以前はすべて灯油の暖房だったそうですが、なぜ薪にしたのか宮司の多田さんに尋ねてみました。「私が子どもの頃は、みんな薪ストーブだったんです。その暖かさが忘れられなくてね…薪の燃えるにおいも何ともいえないですね」と懐かしそうに話します。



ストーブがある部屋は、半分ほどが屋外から直接入る土間。その土間の周囲の二方向にはL字型に床が設けてあり、腰掛けられるようになっています。薪ストーブの暖かさを感じながらそこに腰掛けて多田さんのお話をうかがっているうち、ある場面を思い出していました——数年前に「遠野ふるさと村」に行った時のこと。茅葺きの曲がり家に、板床から一段低く掘り込まれた



囲炉裏があり、その周りに腰掛けて語り部のおばあさんから民話を聞いた——そのときの光景です。

社務所には、近所の方やお祓いを待つ方がしょっちゅう出入りしてはここに腰掛けて、お茶を飲みながら宮司さんと会話したり、時間調整をしたり。いつでも火が燃えているこのストーブの周囲は、いわば現代版「囲炉裏」とも言えるのでしょう。



今までの3シーズン分の薪は、社務所を建てる際の端材でまかなっていました。来年以降は「境内の剪定枝とか、枯れた木を伐ったりとか…毎年けっこう出ますから。それで間に合うかな」と多田さん。

「なんといっても『火をつける』ってことそのものが楽しいよね」と笑う多田さんの少年のような表情が印象的でした。



▲ストーブ：石村工業「クラフトマンストーブ(薪専用タイプ)」



⑥盛岡市・ちいさな野菜畑



ストーブからのメッセージの発信——間伐材のエネルギー利用を訴える

盛岡市北部、松園ニュータウン近くの「ちいさな野菜畑」。顔の見える生産者が育てた野菜や果物をはじめ、味噌や漬物などの加工品や乳製品などが、所せましと並んでいます。店内で食事もでき、いつもお客さんでにぎわっています。



この場所に開店したのは7年前で、昨年春に増築しました。細長い建物の真ん中に置かれた四角い薪ストーブの傍らで、店主の小島さんは「岩手は森林県です。木を利用しようというメッセージを発信していきたいんです」と力を込めます。

さらに「間伐した木をどうにかして利用できないか…うちの店としてできることは、間伐したスギを薪として利用することもその一つかと思いましたが」と続けます。それもそのはず、小島さんは間伐などを行う森林ボランティア団体の特定非営利法人「いわて森林再生研究会」の会員でもあります。

「うちはお店ですから、開店時にぱっと燃えてすぐに暖まるほうがいいんです。そして夕方6時に閉店したらすぐに消えてくれるほうがいい。普通は広葉樹の薪なん

でしょうが、うちの場合かえってスギの方が合うんです」と小島さん。間伐材のスギの薪が、外の小屋にどっさり積んでありました。



ストーブのそばには大きなテーブルと小島さんの作業スペース。「このストーブは建物全体を暖めるのではなく、局部的に暖めるもの。みんな暖をとるためにここに集まって来る…そこからコミュニケーションが生まれるじゃないですか」と熱く語ります。

このお店に並んでいる商品からは、生産者の思いや取り組みなどのメッセージを感じます。そして、お店の真ん中の薪ストーブにも力強いメッセージが込められていました。



▲ストーブ：丸山鐵工所「CB-500」



⑦八幡平市・岩崎さん宅



ゆらめく炎にあこがれて——春からは薪割りにもチャレンジ

岩手山の北麓、カラマツの木立に囲まれた別荘地に建つ岩崎さんのお宅。淡いグリーンの外壁が印象的な、平屋の小さなお宅です。門を入ると、可愛らしい2匹の犬が元気よく出迎えてくれました。ここで、岩崎さんと愛犬とで暮らしています。

岩崎さんは、昨年までずっと神戸で暮らしていたそうです。ご主人を3年前に亡くし、これからの生活の場として、昨年この家を建てました。現在は、すっかりこちらが生活の拠点となっているそうです。



17坪ほどの家は仕切りのないワンルーム。そのほぼ真ん中に、小ぶりな薪ストーブがあります。「朝7時くらいに一度つけて、昼間はよほど寒い日でなければそれほど焚きません。夕方に少し冷えてきたらまたつけます。夜6時ころに最後に薪を入れて、あとは朝までそのままですが、翌朝起きたときの温度は12~13°Cくらいですね。」



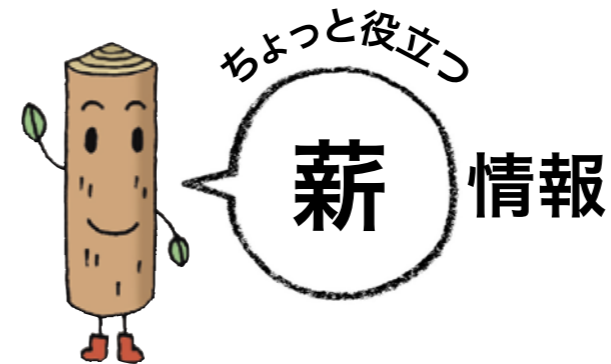
家の断熱性能が高いため一日じゅう焚かなくても十分なようです。

薪ストーブにした理由をたずねると、「炎にあこがれてましたので…ペレットもインターネットで見えていたんですが、ストーブ屋さんと話しているうちに、やっぱり薪にしようと思ったんです」とのこと。「都会にいたころは薪ストーブなんか考えたこともなかったんですが、こんなにいいとは思いませんでした!」と目を輝かせて話してくださいました。

昨年は越してきたばかりで薪の準備ができず、今シーズンの薪はストーブ屋さんから購入しています。「春からは、近所の方と一緒に、薪割りにもチャレンジしようと思ってるんです」と、これからの薪ストーブ生活への期待を笑顔で話してくださいました。



▲ストーブ:ダッチウエスト「プリマス」



■薪の調達

薪を調達するには、薪屋さんなどから購入するか、丸太を入手して自分で切って割るか、森林から木を伐採して薪をつくるか…のいずれかの方法となるでしょう。

薪を購入する

薪屋さんや燃料店などから、既に割ってある薪を購入することができます。取引の単位としては、1束からトラック単位までいろいろありますので、条件に応じて選択すると良いでしょう。一般的に流通しているのはナラの薪ですが、広葉樹がいろいろ混ざったもの(いわゆる「雑木」)ですと若干安価です。



丸太を入手して自分で切って割る

森林組合などから広葉樹の丸太を購入し、それを自分のストーブに合った長さに切り、割って薪にします。薪の状態で購入する場合と比較すると、費用は少なくてすみます。また、庭木を剪定したものや、公園などの管理のために伐採した木を、所有者(管理者)の承諾を得たうえで譲り受けることができれば、それを薪にすることも可能です。

チェーンソーを使える環境や、丸太を置いておく場所を確保する必要があります。



木を伐採して薪をつくる

自分で森林を所有している場合は、その森の木を適期に伐採搬出し、切って割ることにより、自分の労力だけでほとんど費用をかけずに薪を調達することができます。



■薪割り

斧で割る場合

- 自分の体力と体格に合った斧を選ぶことが大切です。斧は刃の角度が鈍角のものを選びましょう。
- 自分の身体と斧の長さに合った台木(太丸太を30～50cmの長さに切ったもの)を準備して、その上に割る丸太を立てて置きます。
- 怪我をしないように、力まずに斧の重さによる遠心力を利用して斧を振り下ろします。振り下ろす時にグリップをしっかり握りましょう。
- 割れた木は、時として勢い良く横方向に飛ぶことがあるので、周囲の人などにも気を配ることが大切です。



薪割り機を使う場合

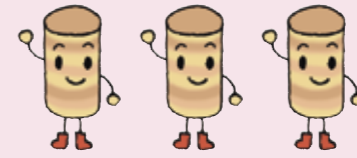
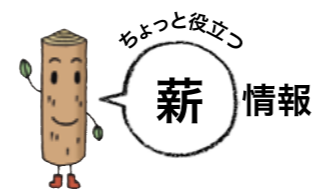
薪割り機には、小型のものから大型のものまで、いろいろな能力の機種があります。また、動力については、エンジン式と電動式のものがあります。たくさんの薪をつくる場合や、斧では無理という方にはおすすめです。割る丸太の樹種や径などの条件に応じて、機種を選定すると良いでしょう。



■薪の保管

薪は、十分に乾燥させてから使用する必要があります。水分が十分に抜けていない薪は、火着きが悪い上、発熱量も小さく、煙突内部の煤(すす)やタールの付着の原因ともなります。

そのため、割った後の薪は、日当たりがよく風通しのよい場所で1年以上乾燥させながら保管する必要があります。その際、雨に当たるとカビが生え、火力のない薪になってしまいます。屋根のかかった保管場所があれば最高ですが、庇の出が大きい住宅であればその軒下を利用して保管することもできるでしょう。薪を積んだ上に防水シートをかけるのも簡易な方法です。



ペレットストーブ事例

①盛岡市・東家本店

お店にペレットの温もりを——老舗のわんこそば屋さんP13



②盛岡市・渡辺さん宅

子どもの独立後に——既存の暖房とペレットストーブの効果的な組合せP14



③盛岡市・村井さん宅

リビングのインテリアとして——替えがたい価値だからこそ普及を期待P15



④盛岡市・金沢さん宅

お年寄りにも暖かくて安心——由緒ある和風住宅の改修を機にP16



⑤矢巾町・武田さん宅

いろいろな料理に大活躍——調理機能に「重宝してます！」P17



⑥紫波町・Caféレモン

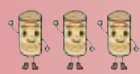
コーヒーの香りとゆれる炎——駅前のカフェで静かに燃えるストーブP18



⑦大船渡市・大澤さん宅

空気がやわらかい!——大きな改修をすることなくストーブを設置P19





①盛岡市・東家本店



お店にペレットの温もりを——老舗のわんこそば屋さん

盛岡市茸手町の老舗のそば屋さん「東家」。創業は明治40年、わんこそばでも有名な、盛岡を代表するお店です。格子戸を開けて店内に入ると、目の前でペレットストーブが赤々と燃えていました。



以前は同じ場所に石油ファンヒーターを置いていましたが、一昨年の秋にこのペレットストーブへ置き換えました。2階まである広い店内のうち、1階の椅子席エリアの暖房として使われています。また、出入口付近は人が出入りするたびに外気が入って寒くなりがちですが、その寒さを和らげるという役割も担っています。



開店前の10時半ごろにスイッチを入れ、午後8時の閉店まで、営業中はずっと運転しています。接客副主任の本堂さんによると「1日でちょうどペレット1袋(10kg)程を使います。毎朝焚き始める前に掃除をして、あとは3～4日に一度灰を取り出す程度の作業ですね」とのこと。困っていることや不便なことは特になさそう。

観光客も多い同店のお客様の反応はどうなのでしょう？

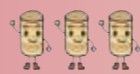
本堂さんは「よく『燃料は何ですか?』と聞かれます。あとは『火が見えていいね』とか、『心も暖まりますね』とか。けっこう好意的な反応ですよ」とにっこり。ストーブ自体は安全なのですが、小さいお子様が来店した際には、珍しがって近づいたり、いたずらに触れたりしないよう声を掛けているとのことでした。

使っているのはホワイトペレット。ストーブを設置した業者から定期的に購入しているそうです。

ゆれる炎をみながら、東家名物の手打ちそばをいただきました。まさに、身も心も暖まる——そんな、そば屋さんのストーブです。



▲ストーブ:金子農機「ベレチカ」



②盛岡市・渡辺さん宅



子どもの独立後に——既存の暖房とペレットストーブの効果的な組合せ

子育てを終えた夫婦が選んだのは、鮮やかな黄色のペレットストーブでした。盛岡市北部の住宅地の一角に建つ渡辺さんのお宅は、築18年。灯油ボイラーで温めた温水を家中に回して室温を保つ、セントラルヒーティングの設備が行き届いています。家自体の断熱性能も、建てた当時としては高いレベルのもの。



設備も性能も確保できているのに、なぜペレットストーブを？

渡辺さんは「やっぱり炎があるといいな...と思いました。あとは、この先も灯油だけに頼るより、もっと環境に良いエネルギーを使いたかった。薪も考えたんですが、調達を考えると、ちょっと大変かな...と。もう少し若ければね(笑)。炎と利便性の両方を考えて、ペレットス



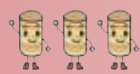
トブになりました」と答えてくれました。

さらに、「セントラルヒーティングでは、運転を始めてもすぐには暖まらないんです。また、ここ何年かの間に家族の生活も変わって、必ずしも家全体を常に暖かくする必要も減りました。夫婦2人でいる時間が長いリビングルームを、必要なときにだけ暖房するために、このストーブが役に立ってますね」と、渡辺さん。このストーブを入れてからは、灯油ボイラーを焚くのは、朝と晩のそれぞれ2時間半ずつ、灯油の消費量は以前の半分程度にまで減ったそうです。1日のペレットの使用量は、1袋の半分から2/3ほど(約5～7kg)。「リビングの居心地も良くなりました」とうれしそう。

家全体の基本的な暖房としての温水暖房はそのままに使いながら、リビングルームには必要に応じて対応できるストーブを設ける...ちょっとぜいたくですが、なかなかうまい組合せです。



▲ストーブ:金子農機「ベレチカ」



③盛岡市・村井さん宅



リビングのインテリアとして—替えがたい価値だからこそ普及を期待

十和田石の床に、しっくい壁。リビングの南側、籐の家具と観葉植物の脇で炎がゆれています。「このストーブ、家具調というか…インテリアとしても良いですね。夏にはストーブだと気がつかない人もいますよ」と、奥様は笑いながら話してくれました。



村井さんは森林・自然環境保全分野の研究者。農林水産省の研究機関や岩手大学で長年研究に携わってきました。大学を退官後も、森林・林業や環境関係で精力的に活動しています。一昨年、リビングの増築を機に、ご自宅にペレットストーブを設置しました。「自分でもやらなきゃ、と思ひまして」と村井さん。「雰囲気とか、暖まりやすさとか、替えがたいものがあります」とのこと。



現在は奥様との2人暮らし。ストーブは、朝8時頃から夜10時頃までの間、不在の時間を除いてほぼずっと運転しています。ペレットの使用量は1日当たり約1

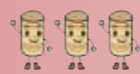
袋(10kg)。今シーズン、パークペレットからホワイトペレットに変えてみたところ、灰の量がすごく少なくなったといいます。

研究者らしく、木質ペレットの普及について一言あります。「導入したのは灯油が急激に値上がりしていた頃でしたから、そのまま高値どまりかと思っていたんですが。また、ペレットは利用者が増えて安くなるだろうという期待感もあったのですが、そうもならなかった。現在の単価では、灯油には対抗できない状況ですね」。また、「ストーブ本体の価格はそれほどではないとしても、付帯する設備を加えると結構な経費になります。以前は、県の導入助成金の制度がありましたが、残念ながら打ち切られてしまいました*。良いものなので、もっと普及してほしいですね。それと、空袋はぜひリユースのために回収する仕組みにしたらどうですか?」といった貴重なご意見をいただきました。

*注:岩手県では、平成20年度で一般家庭向けの助成制度は打ち切ったが、現在は、公共的な施設への補助を拡充して普及促進を図っている。



▲ストーブ:山本製作所「ベチカ禅」



④盛岡市・金沢さん宅



お年寄りにも暖かくて安心—由緒ある和風住宅の改修を機に



大正生まれのお父様、昭和ひとけたのお母様。「高齢の両親が操作しやすいように、と薪ストーブからペレットストーブにしました」と金沢さん。「タイマーで自動着火できますし、温度調節もしやすい。炎も見られて年寄りには優しいね」と利用者のお父様は目を細めます。



盛岡市の市街地に建つ金沢さん宅は、1934年(昭和9年)建築の約100坪の和風住宅。明治期の師範学校の木材を再利用したという記録が残っているそうです。6年前、風情ある外観を残しながら、内部を大改修して二世帯住宅に。現在は金沢さんご夫妻と、合わせて160歳を越す老夫婦の4人暮らしです。

伝統的な和風住宅は、真冬には廊下が凍るほど冷えます。金沢さん宅の改修では、間取りとともに断熱性能も改善し、ご両親のダイニングキッチンにはペレットストーブを入れました。改修前に使っていた薪ス

トーブや石油ファンヒーターと比較して、どうなんでしょう?

「石油のヒーターはスイッチを切ると室内はすぐに冷える。ペレットストーブは暖かみが残りますね。それと、薪ストーブとは違い、(火災を防ぐための)こまめな煙突掃除は必要ないですし、ホコリやゴミも減りました」と金沢さん。

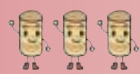


このストーブを点けるのは、主に朝、昼、晩の食事時間帯で合計5時間ほど。ペレット消費量は、冬場で2日に1袋(10kg)程度で、燃料費は以前とそれほど変わりないとか。車いすで移動するお母様のため毎日介護ヘルパー(家政婦)を利用しており、ペレットの補給や灰の掃除は、ヘルパーさんにもお願いしているそうです。

高齢者でも安全に操作でき、案外手間もかからない—そんな安心感が、ペレットストーブの良いところなのでしょう。



▲ストーブ:サンボット「いわて型ペレットストーブ(家庭用)」



⑤矢巾町・武田さん宅



いろいろな料理に大活躍—調理機能に「重宝してます！」

南昌山のすそ野の住宅地にある武田さんのお宅。明るい日差しが差し込むダイニングキッチンでペレットストーブが燃えています。「このストーブでつくったリンゴのパンですが、いかがですか」と、武田さんはストーブの調理室から南部鉄器のお鍋を出してテーブルに。ふたを開けると、甘い香りがふわっと立ち上がってきました。



武田さんは高齢のお母様との2人暮らし。4年前、石油FFストーブがあった場所にこのペレットストーブを設置しました。

石油からペレットに替えた理由についてうかがうと、「ちょうどその頃に使っていた灯油ストーブが故障したということもあったんですが…もともとペレットストーブには興味があって、近くにある県林業技術センターの一般公開の時に、輸入もののストーブを見たんです。それがカッコよくなって」と武田さん。「自分で遊べるというか、いじれるというか…そんなストーブにしたかったんです」とのこと。

そんなお話を聞いているうち、武田さんがパンを切り分けてくださいました。焼きたてでふかふか、リンゴの味が口の中に広がります。このようにパンを焼くほか、煮物料理やふかしイモなど、ストーブ料理のレシピを広げているとのこと。「重宝してます！」とうれしそうに話してくれました。

ストーブは、朝6時半にタイマーで点火し、夜の12時頃までずっと運転しています。ペレットは、近所にある県森林組合連合会の木材流通センターで購入。冬場は2週間に1回、車に20袋(200kg)積んで運んで来るそう。

そういえば、このペレットストーブの調理機能は、モニターの方々からのアイデアを基に開発されたものでした。暖房だけでなく魅力を、多くの方々に引き出していただきたいですね。



▲ストーブ:サンボット「いわて型ペレットストーブ(家庭用)」



⑥紫波町・Caféレモン



コーヒーの香りとゆれる炎—駅前のカフェで静かに燃えるストーブ



JR東北本線の日詰駅前、区画整理の工事が進み、新しい住宅や郵便局が立ち並ぶ一角にある「Caféレモン」。テーブルが3卓とカウンター席だけの、落ち着いた雰囲気の小さな喫茶店です。挽きたてのコーヒーの香りが漂う店内に入ると、入口ドアの脇でペレットストーブが燃えているのが見えます。



店主の園田さんのお話では「もともとはすぐ近くの場所で30年以上喫茶店をしていたんですが、駅前の区画整理にともなって、5年前にこの場所に移転し、建物も新築したんです」とのこと。このペレットストーブは、その際に設置したものだそうです。

営業時間は10時から19時ころまで。ストーブはその間ずっと運転しています。園田さんによると「冬場の寒い時期で、3日にペレット2袋(20kg)を使うくらいです」とのことです。

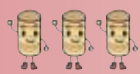
ストーブのすぐ脇に、お米の袋が3つ置いてありました。何だろうと思って中をのぞき込むと、中にペレットが入っています。紫波町内の第三セクターでつくっているペレットなのですが、使用済みのお米の袋を再利用しているのです。紫波中央駅の近くにあるNPO(特定非営利団体)で一度に10袋くらいずつ購入し、車に積んで運んで来ているそうです。



そんな話をうかがっている間にも、近所にお住まいの方が、入れかわりたちかわり、この小さなお店に入ってきます。カウンターでジュースを飲みながら園田さんと楽しくおしゃべりをしていく方。コーヒーを片手に、ゆっくりと文庫本を読んでいる方。ゆったりとした時間が流れる明るい店内の片すみで、ペレットストーブの炎が静かにゆれていました。



▲ストーブ:サンボット「いわて型ペレットストーブ(家庭用)」



⑦大船渡市・大澤さん宅



空気がやわらかい! —大きな改修をすることなくストーブを設置

「何よりやわらかいの! 空気が」。大澤さんは、石油ストーブの着火時や消火時に漂う排気の臭いで、具合が悪くなってしまっていたのだそう。ところが、ペレットストーブに切り替えたところ「全然そんなことないの。洗濯物は乾かし、寝るときに止めても朝までぼかぼかだし、電気代もかかんない。すごくいいよ!」と大絶賛。



大澤さんのお宅は、太平洋に面した綾里湾の漁港近くの高台にあります。瓦屋根の平屋のお宅に、現在はご夫婦と子ども2人の4人暮らし。玄関に入って右手のリビングルームでは、2間幅の大きな掃き出し窓を背にペレットストーブが燃えていました。床のフローリング上に、鉄でできた防熱板付炉台を置いて、その上に設置しています。既存の床や壁の仕上げには全く手を加えていない、手軽な設置方法です。

11年前に建築した家ですが、このストーブを設置したのは一昨年。漁業をやっている大澤さんが、偶然のきっかけでペレットストーブに出会い、ほれ込みました。「釜石のある会社にワカメの塩漬け機械を見学に行



ったんです。その会社の事務所にこのストーブがあって。実は、ワカメの機械の会社でペレットストーブも造っていたわけ。その場でこれはいいな、と思って」と奥様。

燃料のペレットは、住田町内の製造会社で購入し、ト



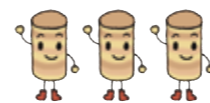
ラックで持って来ているとのこと。日中は不在がちなので、このストーブを焚くのは主に朝と夕方以降ですが、そのような運転で、だいたい1日に1袋(10kg)使っているそうです。

たまたまワカメの塩蔵装置を見に行ったことがきっかけで始まった、ペレットストーブのある暮らし。すっかり満足しているようでした。



▲ストーブ:石村工業「クラフトマンストーブ」

ちょっと役立つ



ペレット情報

■「ペレット」ってどんなもの?

ペレット(pellet)とは英語で「丸い粒」や「丸薬」を意味する言葉ですが、この冊子でいう「ペレット」とは粒状の木質燃料のことを指しており、正しくは「木質ペレット」といいます。樹木を原料として、直径6~10mm、長さ10~25mmの大きさの円筒形に成形された木質燃料で、主にストーブやボイラーの燃料として利用されています。小さな粒状に成形加工されているため、運搬や取り扱いが容易で、燃焼機器に自動で供給することも可能です。また、含まれている水分が少ないため、薪やチップなどの他の木質燃料と比較すると、重量当たりの発熱量が大きいのも特長です。

■ペレットの製造方法

ペレットの原料には、森林の育成過程で生じる間伐材(間引きされた木)や、製材工場やチップ工場等から発生する樹皮、端材、かんな屑などが利用されています。これらを破砕し、乾燥した後にさらに細かく粉碎します。この木粉を、ローラーで圧力をかけながら小孔に押し込んで、円筒状に成形します[図1]。なお、ペレットの製造には接着剤は使用されていません。木の中もともと含まれているリグニン等の物質のはたらきによって固まります。



▲ペレットの製造装置



- ▲図1:リングダイ方式
- ①ダイス
- ②圧縮ローラー
- ③カッター
- ④原料
- ⑤ペレット

模式図提供: 沢辺攻氏

■ペレットの種類

ペレットは、表1に示したように、木部ペレット(ホワイトペレット)、樹皮ペレット(バークペレット)、および全木ペレットの3種類に区分されます。ペレットストーブの機種ごとに、使用できるペレットの種類が限られていたり、種類に応じた設定が必要な場合がありますので、確認する必要があります。

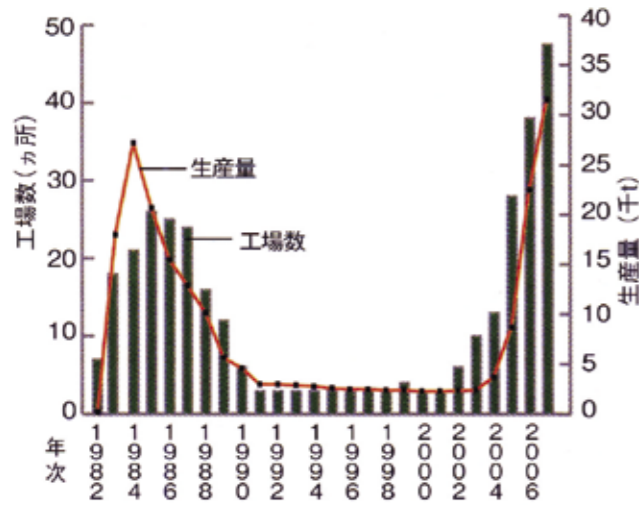
表1:木質ペレット原材料区分

種類	原料の種類
木部ペレット(ホワイトペレット)	樹皮を含まない木質部を主体とした原料を用いて製造したペレット
樹皮ペレット(バークペレット)	樹皮を主体とした原料を用いて製造したペレット
全木ペレット	樹皮付丸太を原料として製造したペレット

■ペレットの生産動向

日本でペレット生産が始まったのは1982年。その直後の数年間は石油危機を追い風に生産量が拡大しましたが、石油価格の下落により、ペレットの生産は急激に減少しました。その後、2000年を過ぎたころから、地球温暖化防止対策や循環型社会の形成といった観点から再びペレットに注目が集まるようになり、ペレットの生産は再び増加してきています[図2]。

2008年8月末の時点では、全国で50工場が稼働しています[図3]。2008年の国内での推定ペレット生産量は約6万tです。



出典：木質ペレット利用推進対策事業報告書
(財団法人 木材技術センター 平成20年3月)
及び日本木質ペレット協会資料による

▲図2：木質ペレットの工場数と生産量の推移



出典：木質ペレット利用推進対策事業報告書
(財団法人 木材技術センター 平成20年3月)
及び日本木質ペレット協会資料による

▲図3：木質ペレット工場の地域分布(2008年8月)

■ペレットの調達

現在、岩手県内で生産、流通しているペレットは4種類あります。それぞれの概略を下に示します。いずれも家庭などの小口の需要先には、主に10kg入りの袋で流通しています。ペレットは販売店の店頭で購入することもできますし、販売店によっては配達してもらうことも可能ですが、その場合の配送料については確認する必要があります。

岩手県内でペレットを取り扱っている販売店については、下記岩手県林業振興課のホームページを参照してください。

http://www.pref.iwate.jp/~hp0552/biomass/slowlife_with_fire/image/H19_shoplist.pdf
(なお、データは平成19年度のもので、現在扱っていない場合がありますので、事前にご確認をお願いいたします。)

岩手県内で生産されているペレット

 森のエネルギー (木部ペレット) 針葉樹の製材時に発生する端材を使用したペレットです。	 らなペレット (全木ペレット) 工場の支障木等を粉砕した原料をもとにして製造したペレットです。
 ARA-WOOD (樹皮ペレット) 広葉樹を製紙用のチップに加工する際に発生する樹皮を固めたペレットです。	 紫あ波せみらいペレット (全木ペレット) 木材資源である間伐材等を利用したペレットです。

ちょっと役立つ
ペレット 情報

🔥 おわりに

最後までお読みいただき、誠にありがとうございました。

お気づきの方もおられると思いますが、私たちはこのパンフレットで「二酸化炭素削減に寄与する」とか「環境のために」と声高に訴えることを、あえてしませんでした。「火のある暮らし」をすることで、生活の中でごく自然に、やさしい生き方をするようになれると感じていただけたと思います。

石油が流通する以前の、労力がかかるような薪ストーブ時代に戻りたくない、という方々もいらっしゃるかもしれませんが、今の薪ストーブは燃焼効率は上がっているし、ペレットストーブなら灰も少なくタイマーがついているものもあります。案外、機能的になっていることを知っていただけたのではないかと思います。

最後に、取材にご協力いただいた皆様に深く感謝申し上げます。どうもありがとうございました。

【情報一覧】

「火のある暮らしを楽しむPart1」 PDF版」

<http://www.pref.iwate.jp/~hp0552/biomass/hinoarukurashi/hinoarukurashi.pdf>

「岩手の木質バイオマス(岩手県農林水産部林業振興課)」

<http://www.pref.iwate.jp/~hp0552/biomass/biomass.htm>

「岩手・木質バイオマス研究会」

<http://wbi.main.jp/>

「木質ペレット情報(財団法人日本住宅・木材技術センター)」

<http://www.howtec.or.jp/pellet/index.html>

